



アップグレード

- [アップグレード手順](#) (1 ページ)
- [サポートされているアップグレードおよび移行パス](#) (1 ページ)
- [要件および制約事項](#) (6 ページ)

アップグレード手順



- (注) アップグレード前のバージョンが Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service のリリース 11.5(1)SU9 の場合、リリース 12.0(x)、12.5(1)、または 12.5(1)SU1 にアップグレードすることはできません。アップグレードできる最小リリースは 12.5 (1) SU2 です。

システムのアップグレード方法の詳細な手順については、『[Upgrade and Migration Guide for Cisco Unified Communications Manager and IM and Presence Service, Release 11.5\(1\)](#)』を参照してください。

サポートされているアップグレードおよび移行パス

次の表を使用して、現在インストールされているバージョンからアップグレードまたは移行ができるかどうかおよびサポートされているアップグレード方法のどれを使用できるかを決定します。

- Cisco Unified CM OS の管理インターフェイスまたは Cisco Prime Collaboration Deployment (PCD) アップグレードタスクを使用した直接アップグレード
- PCD の移行タスクを使用した移行

Cisco メディア コンバージェンス サーバハードウェアでの展開

サーバハードウェアで Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service を直接インストールまたは実行することはできません。これらのアプリケーションは仮想マシンで実

行する必要があります。次の表は、Cisco 7800 シリーズ メディア コンバージェンス サーバー (MCS 7800) ハードウェア上で現在実行中の導入でサポートされている移行パスを示しています。以下のサポートされている移行パスは、すべて物理/仮想 (P2V) の移行です。



(注) 次の表は、以下の例外を除く、MCS 7800 シリーズ サーバでサポートされているアップグレードパスを示しています。

- MCS 7816-C1 for Business Edition 3000 (BE3000)
- MCS 7828 for Business Edition 5000 (BE5000)

PCD の移行は、BE3000 および BE5000 の導入ではサポートされません。これらの製品のアップグレードには新規インストールをお勧めします。

表 1: *Unified Communications Manager MCS 7800* シリーズ ハードウェアにインストールされたリリース

送信元	送信先	サポートされている方法
6.1(5)	11.5(x)	PCD の移行
7.1(3) および 7.1(5)	11.5(x)	PCD の移行
8.x	11.5(x)	PCD の移行
9.x	11.5(x)	PCD の移行

表 2: *MCS 7800* シリーズ ハードウェアにインストールされた *Cisco Unified Presence* および *IM and Presence* リリース

送信元	送信先	サポートされている方法
CUP 8.5(4)	11.5(x)	PCD の移行
CUP 8.6(3)、8.6(4) および 8.6(5)	11.5(x)	PCD の移行
IM and Presence 9.x	11.5(x)	PCD の移行

仮想マシンでの展開

次の表は、現在仮想マシン上で実行中の Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service 展開でサポートされているアップグレードおよび移行パスを示しています。以下のサポートされるアップグレードおよび移行パスは、すべてバーチャル-バーチャル (V2V) です。特に明記されていない限り、各パス内のサービスアップデート (SU) はサポートされています。

表 3: *Unified Communications Manager* 仮想マシンにインストールされているリリース

送信元	送信先	サポートされている方法
8.6(x)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接更新) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
9.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
9.1(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新) Cisco Unified OS の管理 (直接更新)
10.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)
10.5(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準) Cisco Unified OS の管理 (直接標準)
11.0(1)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)
11.5(x)	11.5(y)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)

表 4: 仮想マシンにインストールされている *Cisco Unified Presence* および *IM and Presence* のリリース

送信元	送信先	サポートされている方法
CUP 8.5(4)	11.5(x)	PCD の移行
CUP 8.6(3)、8.6(4) および 8.6(5)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)
CUP 8.6(x)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接更新)
IM and Presence 9.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新)

送信元	送信先	サポートされている方法
IM and Presence 9.1(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接更新) Cisco Unified OS の管理 (直接更新)
IM and Presence 10.0(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準) PCD のアップグレード (直接標準)
IM and Presence 10.5(x)	11.5(x)	PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準) Cisco Unified OS の管理 (直接標準)
IM and Presence 11.0(1)	11.5(x)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)
IM and Presence 11.5(x)	11.5(y)	Cisco Unified OS の管理 (直接標準) PCD の移行 PCD のアップグレード (直接標準)

リリース 11.5(x) へのアップグレードパスの制限

通常、アップグレードパスと移行パスは、各パス内のサービスアップデート (SU) をサポートします。ただし、特定の SU リリースにはいくつかの例外があります。次の表に、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(x) へのアップグレードおよび移行の例外を示します。

表 5: サポートされているアップグレードおよび移行パスの制限、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(x)

送信元	送信先	説明
10.5(2)SU5	11.5 (1.10000-6) ~ 11.5 (1.120 xx)	パスはサポートされていません。これらのリリースでは、代わりに 11.5(1)SU2 にアップグレードします。

リリース 11.5 へのアップグレードに必要な COP ファイル

次の表は、COP ファイルが必要なアップグレードパスを示しています。Cisco Unified OS 管理インターフェイスを使用してアップグレードを開始する前、または Prime Collaboration Deployment

(PCD) ツールを使用してアップグレードまたは移行を開始する前に、各ノードに COP ファイルをインストールする必要があります。PCDを使用している場合は、アップグレードを開始する前に COP ファイルの一括インストールを実行できます。

表 6: Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(x) へのアップグレードおよび移行に必要な COP ファイル

送信元	送信先	アップグレードタイプ
8.6(x)	11.5(x)	更新アップグレード。必須 COP ファイル : <ul style="list-style-type: none"> ciscocm.version3-keys.cop.sgn オプションの COP ファイル : <ul style="list-style-type: none"> ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn ciscocm.free_common_space_v<latest_version>.cop.sgn
9.1(x)	11.5(x)	更新アップグレード。必須 COP ファイル : <ul style="list-style-type: none"> ciscocm.version3-keys.cop.sgn オプションの COP ファイル : <ul style="list-style-type: none"> ciscocm.vmware-disk-size-reallocation-<latest_version>.cop.sgn ciscocm.free_common_space_v<latest_version>.cop.sgn
10.5(x)	11.5(x)	標準アップグレード : COP ファイルは不要。
11.0(x)	11.5(x)	標準アップグレード : COP ファイルは不要。
11.5(x)	11.5 ((y))	標準アップグレード : COP ファイルは不要。

表 7: Cisco Unified Presence リリースからの更新アップグレードに必要な COP ファイル

元の Cisco Unified Presence リリース	アップグレード先の IM and Presence Release	アップグレードタイプ
8.5(4) ~ 8.6(1)	11.5(x)	更新アップグレード。以下の COP ファイルが必要 : <ul style="list-style-type: none"> cisco.com.cup.refresh_upgrade_v<latest_version>.cop ciscocm.version3-keys.cop.sgn

表 8: IM およびプレゼンスサービス リリースからの更新アップグレードに必要な COP ファイル

元の IM and Presence リリース	アップグレード先の IM and Presence Release	アップグレードタイプ
9.1(x)	11.5(x)	更新アップグレード。以下の COP ファイルが必要： • ciscocm.version3-keys.cop.sgn
10.5(x)	11.5(x)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。
11.0(x)	11.5(x)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。
11.5(x)	11.5(y)	標準アップグレード：COP ファイルは不要。

要件および制約事項

ここでは、システムをアップグレードする際に考慮する必要がある要件と制限事項について説明します。

スタンドアロン Prime ライセンス マネージャでのアップグレード要件

Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5(1)SU3、SU4、SU5、SU6、SU7、SU8、SU9、SU10、および SU11 は、Cisco Prime License Manager リリース 11.5(1)SU2 以降と互換性があります。スタンドアロンの Cisco PRIME ライセンス マネージャを導入する場合は、お使いの PRIME ライセンス マネージャのバージョンが最低でも 11.5 (1) SU2 であることを確認してください。それ以外の場合、Unified Communications Manager は、スタンドアロンのプライム ライセンス マネージャとライセンスの使用状況を同期できません。

これらの Unified Communications Manager リリースのいずれかをアップグレードし、Prime License Manager のスタンドアロンバージョンを実行している場合は、Unified Communications Manager をアップグレードする前に、Prime License Manager インスタンスを 11.5(1)SU2 以降にアップグレードしてください。



(注) 共存可能な PRIME ライセンス マネージャを導入すると、Cisco Unified Communications Manager と Cisco PRIME ライセンス マネージャは自動的に互換します。

Cisco Jabber のユーザはアップグレード時はログアウトする

IM and Presence Service をアップグレードする場合は、アップグレード中にすべての Cisco Jabber ユーザがログアウトするようにすることをお勧めします。Cisco Jabber ユーザ アクティビティ

が多いほど、プレゼンスステータスの同期エラーなどの管理者の介入が必要なエラーが発生する可能性が高くなります。

CLIによって開始される IM and Presence のアップグレードに必要な OS 管理者アカウント

utils system upgrade CLI コマンドを使用して、IM and Presence Service ノードをアップグレードする場合は、管理者権限を持つユーザではなく、デフォルト OS 管理者アカウントを使用する必要があります。デフォルト OS 管理者アカウントを使用しないと、必須のサービスをインストールするためにアップグレードに必要な特権レベルがなくなり、アップグレードが失敗する可能性があります。**show myself** CLI コマンドを実行すると、アカウントの特権レベルを確認できます。アカウントには特権レベル 4 が必要です。

この制限は、IM and Presence Service の CLI によって開始されるアップグレードにのみ適用され、Unified Communications Manager には適用されないことに注意してください。また、この制限は、新しい ISO ファイルでは修正される可能性があることに注意してください。特定の ISO ファイルの詳細については、ISO Readme ファイルを参照してください。この制限に関する最新情報については、[CSCvb14399](#) を参照してください。

以前のバージョンへのロールバック

アップグレードの問題が発生し、以前のバージョンにロールバックする必要がある場合は、Unified Communications Manager および IM and Presence Service の両方のインストールを以前のバージョンにロールバックする必要があります。そうしないと、サポートされていないバージョンの不一致が生じます。

Unified Communications Manager バージョンのロールバックと、IM and Presence Service のバージョンを 11.5(1)SU2 のままにすることはサポートされていません。同様に、IM and Presence Service のバージョンをロールバックして、Unified Communications Manager のバージョンを 11.5(1)SU2 のままにすることはサポートされていません。

FIPS Mode を有効にした状態でのアップグレード

リリース 11.5(x) では、Unified Communications Manager および IM and Presence Service は、FIPS モードが有効になっている場合、2048 ビット未満のキーサイズの RSA 証明書をサポートしていません。これは、サーバ証明書と LSCs に影響します。

FIPS モードが有効になっているリリース 11.5(x) にアップグレードしており、現在のバージョンで 2048 ビット未満の RSA キーサイズを使用している場合は、次のいずれかの項目を実行して問題を解決できます。

次のいずれかの操作を実行できます。

- 現在のバージョンが 2048 ビットのキーサイズをサポートしている場合は、アップグレードする前に影響を受ける証明書を再生成します。または、
- リリース 11.5(x) にアップグレードした後、影響を受ける証明書を再生成します。



- (注) このオプションを選択すると、セキュアな接続では、RSA キーサイズが 2048 ビット以上になるまで、影響を受ける証明書の使用は許可されません。

混合モードでのアップグレードには暗号化ライセンスが必要

このリリースでは、混合モードで Unified Communications Manager を実行するためには暗号化ライセンスをインストールする必要があります。Unified Communications Manager の以前のリリースからアップグレードする場合、クラスタセキュリティが混合モードに設定されている場合は、暗号化ライセンスを取得して Cisco Prime ライセンスマネージャにインストールする必要があります。

混合モードを有効にして旧リリースからアップグレードしているものの、暗号化ライセンスをインストールしていない場合は、アップグレードの直後に、ユーザーインターフェイスに暗号化ライセンスについての警告メッセージが表示されます。また、

CiscoSystemEncryptionNotAllowedアラートが表示されます。混合モードで引き続きシステムは稼働しますが、CTL ファイルをアップデートすることはできず、暗号化ライセンスをインストールするか、クラスタのセキュリティ設定を非セキュアモードに戻すまで警告が表示され続けます。可能な限り早い段階で暗号化ライセンスをインストールすることにより、中断なく混合モードで実行し続けることができるようにすることをお勧めします。

アップグレード時に混合モードで実行していなかった場合は、暗号化ライセンスを Unified Communications Manager に適用して同期が完了するまで、クラスタを混合モードにすることはできません。

ライセンスファイルの発注とインストール

次の表では、暗号化ライセンスを使用してシステムを更新する方法について説明します。

表 9: 暗号化ライセンスを使用したシステムの更新

手順	タスク	説明
ステップ 1	ENCPAK ライセンスファイルを取得する。	<p>https://tools.cisco.com/gct/Upgrade/jsp/index.jspの製品アップグレードツールを使用して暗号化ライセンスを注文するには、CUCM-PLM-ENC-K9=part numberを使用します。</p> <p>ライセンスの発注方法については、『Cisco Unified Communications Solutions Ordering Guide』を参照してください。</p> <p>(注) 展開で Cisco PRIME ライセンスマネージャの複数のインスタンスを使用している場合は、PRIME ライセンスマネージャインスタンスごとに個別の暗号化ライセンスを注文する必要があります。</p>
ステップ 2	Cisco Prime ライセンス マネージャに暗号化ライセンスファイルをインストールします。	『 Cisco Prime License Manager ユーザーガイド、リリース 11.5(1)SU2 』の「既存のライセンスのアップグレード」の手順に従います。
ステップ 3	ライセンスの同期	<p>Cisco Prime ライセンス マネージャで、[製品インスタンス(Product Instances)] タブを選択し、[ライセンスの同期(Synchronize licenses)]をクリックします。</p> <p>詳細は、<i>Cisco Prime</i> ライセンス マネージャ ユーザ ガイド、リリース <i>11.5(1)SU2</i>を参照します。</p>

Microsoft SQL Server を使用したアップグレードに必要なデータベース移行

Microsoft SQL Server を IM and Presence Service の外部データベースとして展開していて、11.5(1)、11.5(1)SU1、または 11.5(1)SU2 からアップグレードする場合は、新しい SQL Server データベースを作成し、その新しいデータベースに移行する必要があります。この作業は、このリリースで強化されたデータタイプのサポートのために必要です。データベースを移行しないと、既存

の SQL Server データベースでスキーマの検証に失敗し、持続チャットなどの外部データベースに依存するサービスが開始されません。

IM and Presence サービスをアップグレードした後、この手順を使用して、新しい SQL Server データベースを作成し、新しいデータベースにデータを移行します。



(注) この移行は、Oracle または PostgreSQL の外部データベースでは必要ありません。

はじめる前に

データベースの移行は、MSSQL_migrate_script.sql スクリプトに依存します。コピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。

表 10:

手順	タスク
ステップ 1	外部 Microsoft SQL Server データベースのスナップショットを作成します。
ステップ 2	<p>新しい（空の）SQL Server データベースを作成します。詳細については、『<i>Database Setup Guide for the IM and Presence Service</i>』の次の章を参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「Microsoft SQL Installation and Setup」：アップグレードされた IM と Presence サービスで新しい SQL Server データベースを作成する方法の詳細については、この章を参照してください。 「IM and Presence Service External Database Setup」：新しいデータベースを作成した後、この章を参照して、IM and Presence サービスにデータベースを外部データベースとして追加します。
ステップ 3	<p>システムトラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)] を選択します。 [外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)] セクションにエラーが表示されていないことを確認します。

手順	タスク
ステップ 4	<p>すべての IM and Presence サービスのクラスタ ノード上で Cisco XCP ルータを再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)]から、[ツール (Tools)]>[コントロールセンター-ネットワークサービス (Control Center - Network Services)]を選択します。 2. [サーバ (Server)]メニューから、IM and Presence サービス ノードを選択し、[移動 (Go)]をクリックします。 3. IM and Presence Servicesの下で、Cisco XCP Routerを選択して、再起動をクリックします。
ステップ 5	<p>外部データベースに依存するサービスをオフにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)]から、[ツール (Tools)]>[コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)]を選択します。 2. [サーバ (Server)]メニューから、IM and Presence ノードを選択し、[移動 (Go)]をクリックします。 3. [IM およびプレゼンスサービス IM and Presence Services)]の下で、次のサービスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Cisco XCP Text Conference Manager Cisco XCP File Transfer Manager Cisco XCP Message Archiver 4. [停止 (Stop)]をクリックします。
ステップ 6	<p>次のスクリプトを実行して、古いデータベースから新しいデータベースにデータを移行します。MSSQL_migrate_script.sql</p> <p>(注) このスクリプトのコピーを入手するには、Cisco TAC にお問い合わせください。</p>
ステップ 7	<p>システム トラブルシュータを実行して、新しいデータベースにエラーがないことを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、[診断 (Diagnostics)]>[システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)]を選択します。 2. [外部データベーストラブルシュータ (External Database Troubleshooter)]セクションにエラーが表示されていないことを確認します。

手順	タスク
ステップ 8	<p>以前に停止したサービスを開始します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] から、[ツール (Tools)]>[コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。 [サーバ (Server)] メニューから、IM and Presence ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。 [IM およびプレゼンスサービス (IM and Presence Services)] の下で、次のサービスを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Cisco XCP Text Conference Manager Cisco XCP File Transfer Manager Cisco XCP Message Archiver [開始 (Start)] をクリックします。
ステップ 9	<p>外部データベースが稼働していることと、すべてのチャットルームが Cisco Jabber クライアントから認識可能であることを確認します。新しいデータベースが動作していることが確かな場合にのみ、古いデータベースを削除してください。</p>

プッシュ通知が有効な 11.5(1)SU2 からのアップグレード

11.5(1)SU2 リリースからアップグレードしていて、旧リリースでプッシュ通知が有効になっていた場合は、現在のリリースでプッシュ通知を無効にしてから、オンボーディングプロセスに従ってプッシュ通知を再度有効にする必要があります。この作業は、11.5(1)SU2 リリースの一部ではなかった、このリリースでの API 変更のために必要です。プッシュ通知を無効してから、このリリースのオンボーディングプロセスに従わないと、アップグレードしたシステムはトラブルシューティング ログをシスコクラウドに送信できません。

システムをアップグレードした後、次の操作を行います。

手順

ステップ 1 プッシュ通知を無効化する

次の手順に従ってください。

- [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[高度な機能 (Advanced Features)]>[Cisco Cloud オンボーディング (Cisco Cloud Onboarding)]。
- 次のチェックボックスをオフにします。

- プッシュ通知を有効化する
- シスコクラウドにトラブルシューティング情報を送信する（**Send Troubleshooting information to the Cisco Cloud**）
- トラブルシューティングのために暗号化された PII をシスコクラウドに送信する

3. [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 2 このリリースのプッシュ通知を有効にする。

完全オンボーディングプロセスについては、『[Deploying Push Notifications for Cisco Jabber on iPhone and iPad](#)』の「Push Notifications Configuration Task Flow」を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。